

久世から真庭へつながる絆

岡山県立久世・真庭高等学校

平成22年春、久世高校最後の新生が入学、翌年真庭高校久世校地として生徒を迎え入れました。その新生も学校の中核となる2年生になりました。「元気な久世高校！」のスローガンの下、地域とともに学習活動を続けてきた久世高生。生物生産科は野菜苗の生産・販売や幼稚園児との植栽交流。食品科学科は青大豆の加工品開発としてラーメン・マドレーヌを商品化し、今年はおから味噌・パウンドケーキと開発を続けてきました。



新 温 室



青大豆加工品開発会議

食品科学科は振興局より依頼された有害獣利用プロジェクトとしてイノシシやシカ肉の加工品作り。先輩たちに続け！追い越せと学習活動に取り組んでいます。生物生産科は新しい温室が完成し、軒も高く快適な環境でより品質の高いシクラメンやサイネリアの栽培が可能となりました。

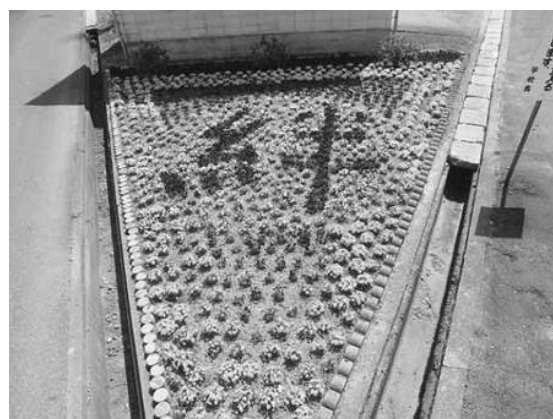
また、久世・真庭・落合の3校が合同で昨年取り組んだヒトツナギ・お見米プロジェクト(被災地と真庭市を結ぶ活動)に引き続き、本年度は「こちら高校市民課防災係」を立ち上げ、地域防災・非常食の原料生産や開発に取り組みました。



真庭PAで販売中の加工品

その先輩たちの姿をしっかり見つめ、後に続く真庭高校久世校地の生徒たち。

地域とともに学び育つ久世高校の校風は確実に真庭高校へと受け継がれています。



平成23年度卒業生による卒業制作花壇